

三年前から、僕の家族は青島諸島・徳之島に住んでいる。とうとうも妻の両親の出身地で、この女房が子供に自然の素晴らしい肌で感じさせたといふ、移住を希望したからだ。そのいささつをエッセイ『ゆめじい島のスローライン』(学研)にまとめた。

その本を読んだ朝日カルチャーセンターの方から「島のツアーができませんか。」という相談が持ち込まれた。そこで、イタリアのスローフード協会が行っ

ていさつな、食文化をテーマに、農家が語り、自分の食材でもてなすツアーを企画しようと思いついた。徳之島は飛行機代がかかるので観光誘致が難しいといわれている。島で盛んな

食文化をテーマに あじのまの島のツアー (徳之島)

つとありきたりの自然の景観や島の食材料理でもてなせばいいと思うのだ。ふつうにある景観で十分に楽しい。それに手作りの料理があれば、人は呼べるという

農家「普段していることに自信持てた」

これにのってくれたのが、観光協会の事務局の丸野清さん。「前から、島の普段の景色でツアーをした

には、野菜畑を見学し、料理に野菜を提供してもらう。これで一人1000円。こんなふうにして、珊瑚礁

地域農産物を最大限に活用 心のこもった料理に大絶賛

自信があった。

コーヒー栽培をしている

そこは島の農家に、スズ

吉玉さんには、畑を見学して

て手作りで既成にないシ

のサタテンブラ(黒砂糖を

ーをやろうと呼びかけた。

使ったお菓子)とコーヒー

島の自然の景観を見なが

を出す。これに希望価格を

ら、地域農産物を最大に活

出してもらう。一人あたま

かした料理を提供し、農家

1000円となった。

の現場を見ながら話を聞き

だ。宿泊は、海が一望でき

楽しんでほしいものだ。

た。「こんな愛情ある料理は初めて」と、感極まって泣く聲もいっせいに

大成功。このツアー、あまりに好評で、もう定例で行うことが決定した。いちばん楽しかったのはもてなした農家の「自分たちが普段していることに自信をもてた」の言葉だった。

地産地食で

食環境シャーマナリヌメ
金丸 弘美

地域が元気